



YMCA学院児童福祉教育科2年 池上 貴弘さん 池上 大輝さん

悩みと焦りから生まれた職業観

保育士・幼稚園教諭を養成する熊本YMCA学院児童福祉教育科2年に二人の兄弟がクラスメイトとして在学中です。兄の池上貴弘さんと、4歳年下の弟、大輝さんです。貴弘さんのふくらはぎには30センチほどの長い傷跡が今も生々しく残っています。3年前の熊本地震で自宅は半壊。大きな揺れの中、妹を抱きかかえて外へ逃げる時にできた傷です。救急外来に着いた時には、足元は血の海になっていました。「このまま死ぬかもしれない。自分はなぜ人生の道筋を見つけれなかったんだろう」。そんな思いを抱いたと言います。目指していた海上保安庁の試験には2年続けて不合格。フリーター歴も2年以上になっていました。「友人たちはみんな就職している。悩みと焦りでいっぱいでした」。

悩み続ける貴弘さんに、一つの職業観が少しずつ浮かんできていました。あるサッカークラブで指導員のアルバイトをしていた頃、子どもへの指導で感じた難しさから浮かんだ「人を育てる」というキーワードです。「バイトの経験だけではダメだ。専門的に学びたい」。日に日にその気持ちが強くなっていきました。

同じ教室で目指す同じ目標

「兄弟として見ないでほしい」

保育士の母の影響もあり、弟の大輝さんは高校生の頃から、将来は保育士か幼稚園教諭になると決めていました。生後2カ月の時に母親が勤める保育園に入園。「先生」として働く母の姿は今でも鮮明に覚えています。仕事は多忙。でも、自宅に持ち帰った仕事を母はいつも楽しそうにやっていた、と大輝さん。「母が理想の保育者像です。学校の課題で分からないことがあれば母にアドバイスしてもらいます」。

YMCA学院への進学を先に決めたのは弟の大輝さん。大輝さんに同行してオープンキャンパスに参加した貴弘さんは「ここでならまた勉強できるかもしれない」と感じたそうです。フリーターだった貴弘さんが大輝さんに「俺もお前と同じ学校、同じ学科を受験する」と告げたのは入学試験の直前でした。大輝さんは驚きました。単身赴任の父、現役保育士で忙しい母、5人兄妹の家庭で、4歳年上の兄はいわば「父親のような存在」。その兄が「自分と同級生」になるとは、にわかには想像できませんでした。

それぞれ異なる考えと経験からたどり着いた「保育士・幼稚園教諭」という共通の目標。兄の貴弘さんはある行動に出ます。新学期、クラスメイトを前にした自己紹介で、貴弘さんはこう宣言したのです。「俺たちを兄弟として見ないでほしい。俺は俺。大輝は大輝だ」。



幼稚園児と行った保育実習

両親から教えられた「自立」

5人兄妹の池上家の子育て論は「質素倹約」と「自分のことは自分でやる」。母は子どもたちに言いました。「高校卒業までは面倒を見る。その後は自分で考え、自分で行動しなさい」。大輝さんは高校生になると卒業後の学費のためにアルバイトを始めます。貯金は数十万円になりました。今もアルバイトですべての学費を納めています。それは貴弘さんも同じです。「他の人より苦労している、とは思いません。物心ついた頃からずっとそうでしたから」と二人は終始穏やかです。

二人にどんな保育者になりたいか尋ねました。「知らない人とは話してはダメ」と言われる社会で子どもたちは育てている。近所のおばちゃん的存在はいないし、安心して遊べる環境も少ない。虐待の問題も深刻。社会への問題意識を持ち続け、失われていく『大切なこと』を補える保育者になりたいですね。いずれは若い保育者を育てる管理職まで目指したい」と貴弘さん。大輝さんは、「YMCAの先生は『答え』は出してくれない。いつも『自分で考えなさい』と言ってくれます。兄ほどはっきりした目標はまだ見えていませんが、子どもの個性を大切にしながら、より深く関係をつくる保育者になりたいですね」。

ライバル心を持ちつつ、絆で結ばれた4歳差の兄弟。進路を決めたきっかけも、職業観もそれぞれですが、二人が見据える将来には、教育者としての姿が見えているようです。

Pickup

草スキー楽しいね!
ゴールデンウィークキャンプ



リフレスおおもた
なんでもやる隊
手作りピザをパクリ

元気に育ってね!
尾ヶ石保育園
お芋の苗植え



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

6月22日~23日

子どもたちと思い出と感動を共有 キャンプリーダー募集

野外
×
ボランティア

1920年にYMCAが日本で最初のキャンプを実施してから来年で100年を迎えます。熊本YMCAではキャンプや野外活動クラブにボランティアとして携わるキャンプリーダーを募集します。将来、子どもたちと関わるお仕事を目指す学生の皆さん、子ども好き・キャンプ好きという皆さんの参加をお待ちしています。トレーニングを実施しますので、ぜひご参加ください。

YMCAキャンプリーダートレーニング

回6月22日(土)13:00集合~23日(日)17:00解散 1泊2日

集合解散ながみねファミリーセンター(熊本市東区長嶺南3-1-107)

回高校生以上の男女(高校生・短大・専門学校・大学生・一般) ※子どもたちと日帰りまたは宿泊を伴うキャンプ、野外活動に参加できる人

回YMCAキャンプとは・グループワーク・コミュニケーション・キャンプリーダーの役割・対象の理解・安全管理など

宿泊YMCA阿蘇キャンプ(阿蘇市車帰358)

回運動ができる長袖、長ズボン、筆記用具、22日の昼食、宿泊に必要なもの

回3,000円

回サマーキャンプ参加の子どもたちを対象とした事前説明会を7月7日(日)に行います。

回QRコードから登録。

6月15日(土) 締切

回YMCA中央センター

山田 Tel 096-353-6391

まってるよ!!
一緒に楽しもう!



阿蘇復興支援ボランティア ワークキャンプ

災害
×
ボランティア

熊本地震から3年以上が経過した今も、支援を必要としている方が多くいます。YMCAでは阿蘇キャンプを拠点に活動するボランティアを随時募集しています。家屋の片づけ、農業ボランティア、被災地視察などを行っています。

宿泊YMCA阿蘇キャンプ(阿蘇市車帰358 ※駐車場あり)

回お申込み時に、ご希望の日程をお知らせください。

回1泊 宿泊費:3,630円/食費 夕食1,200円 朝食700円 昼食700円

回事前にボランティア保険(天災プラン)にご加入ください。

天災A:430円/天災B:650円。

回参加条件・持ち物・注意事項はWebサイトをご覧ください。

回YMCA阿蘇キャンプ ボランティアセンター Tel 0967-35-0124



8月4日~8日

広島で平和について考える 第41回国際青少年平和セミナー

コース
×
平和

広島YMCA国際青少年平和セミナーは、日本中の若者はもちろん、海外の若者も広島に集まり、毎年8月6日の原爆の日前後で行われています。同じ若者でも育った国や環境が違えば戦争・平和に関する考えが違います。様々な活動を通して互いの思いと考えを共有しながら国際交流ができるチャンスです。



回8月4日(日)~8日(木)

回広島YMCA・広島平和記念公園 回90,000円(熊本⇄広島の交通費含む) ※熊本YMCA地球市民育成基金の助成申請により補助(最大6割)があります。

回青少年(高校生・専門学校生・短大生・大学生) 回被爆者講話、平和記念公園フィールドワーク、平和記念式典参列、ワークショップ、グループディスカッション、フィールドトリップなど

回6月20日(木) 回10名

回参加者には事前研修を実施します。日程は別途お知らせします。

回広島YMCA 後援 日本YMCA同盟

回熊本YMCA Tel 096-353-6397

6月21日・7月1日

子育て広場わいわい in 水前寺幼稚園

親子
×
ふれあい

昨年好評だった子育て支援、親子ふれあいサークル「子育て広場わいわい」を今年も開催。水前寺幼稚園を会場に運動遊びや読み聞かせ、制作、イベントなど、たくさんの活動を行います。ぜひ遊びに来てください。

時間 10:00~11:10

回未就園児と保護者

回YMCA水前寺幼稚園(熊本市中央区出水3丁目12-1)

回①6月21日(金) 英語であそぼう!~親子ではじめての英語あそび~

②7月1日(月)七夕飾りを作ろう

その他、3月まで不定期で開催します。

回無料 回開催日の約10日前から水前寺幼稚園Webサイトにてお申し込みできます。

回YMCA水前寺幼稚園 Tel 096-362-4141



R | E | P | O | R | T

[4月16日⇒ 5月24日]

幼稚園

復興祈念「空に願いを」 園児たちがバルーンリリース

4月16日(火)、YMCA熊本五福幼稚園の開園1周年記念にあわせ、発生から3年を迎えた熊本地震からのさらなる復興を祈念して、バルーンリリースを行いました。園児全員と保護者、地域や熊本五福ワイズメンズクラブ、協力企業など、総勢70名が参加しました。

飛ばしたのは色とりどりの100個の風船。園児たちが書いた絵やメッセージと、コスモス、ヒマワリなどの種が取り付けられました。子どもたちが歌を披露した後、「被災地のさらなる復興を願って世界の

皆が共に歩いていけますように。手にしている風船に、人との出会いやつながり、皆の幸せを願う心など、たくさんの願いを込めましょう」というメッセージとともに、風船が空高く飛んでいきました。

後日、西原村から、「5歳ぼく」の絵が入った風船を見つけました。栗畑で見つけたので、ひまわりの種も、すぐ畑に植えました」と園に電話がかかってきたり、阿蘇火山博物館で見発見されたりと、絵やメッセージに込めた思いが、誰かの手に届いたことが分かったと、園児たちは大歓声で喜んでいました。



国際理解

2030年に向けて 「世界一大きな授業」のすすめ方

5月12日(日)に中央センターにて、認定NPO法人開発教育協会(DEAR)より講師を招き、「世界一大きな授業」のワークショップを開催しました。現在、世界には小学校に通えない子どもは6,400万人、読み書きができない大人は7億5,000万人も存在すると言われています。国連は「持続可能な開発目標(SDGs)」を採択し、2030年までにすべての子どもが質の高い就学前教育、初等教育、中等教育を受け、大人の識字率も大幅に改善することを約束しました。「世界一大きな授業」は、そのような世界の現

状に目を向け、教育の大切さを、同じ時期に考えようという地球規模のイベントです。

今回は実践者向けワークショップということで、教職員やNPO関係者など、県内外から関心の高い参加者が集まりました。世界で使われている軍事費と教育費を、赤い紙テープで比較するワークでは、軍事費の多さに驚きの声も。参加者からは「参加型で意欲的に学べる内容だった」「今日の学びを多くの人に伝えたい」との感想が寄せられました。

職員 岩切かおり



会員運動

会員と共に歩みを 熊本YMCA会員大会

5月24日(金)、地域活動・国際協力などのYMCA運動を支える会員が一堂に会する熊本YMCA会員大会を中央センターで開催しました。第1部礼拝では、日本福音ルーテル大江教会牧師の立野泰博さんによる奨励が行われ、「YMCAの活動は必ず神様に導かれます」とメッセージが送られました。第2部では、上智大学の田中治彦さんが「SDGsとYMCA運動」をテーマに講演を行いました。(詳細は次号掲載)

第3部は永年在籍の会員やYMCAの活動を支えた団体を表彰。会員在籍60年を迎えた廣石妙子さ

んは「中学生の時にキャンプに参加したのがYMCAとの出会いです。YMCAとつながることで、何か自分が社会のためになっていると思えることは、自分の喜びでもあります。これからも会員の一人として活動を支えていきたいです」と挨拶しました。第4部定期総会では、2018年度事業・決算や2019年事業計画・予算が総主事の岡成也さんから報告されました。また、会員の代表である常議員の信任投票の結果が報告され、全員の信任が発表されると、大きな拍手が送られました。



岡総主事の タラント Vol.59



隣人と共に

昨年、放映されたあるテレビドラマの中で「ひとりメーカー」(製品作りに必要とされる企画、製造、流通などを一人で行うクリエイターを表す造語)と物作りの現場が描かれていました。1971年生まれの主人公を軸に、登場人物たちが新しい価値観、個の持つ力に共鳴しあい、様々な可能性が広がる時代が描かれていたこ

とを思い出します。大企業ではなくても、協力者と共につき詰め、創意工夫することで、自分のアイデアを具現化していく姿を見て、時代の変化が人材のあり方、考え方にも変化をもたらしたのではないかと思います。

一方、今後はAI(人工知能)があらゆる場面で自動化を進め、AIに仕事を奪われる層が増え、格差が広がっていくと言われています。人口減少の時代に生きる次世代にとって、AIには代われない個々の強みを活かすことを可能にする教育が大切です。成長の場と機会を提供していくことで、一人ひとりがその能力を発揮でき、さらに豊かさを実感できる社会へ変化していくための働きができるYMCAでありたいと願っています。

ポジティブネットのある豊かな社会の実現へ、YMCAの力を発揮するための母体は、多様で多くの志を持つ維持会員です。熊本YMCAの各拠点で更なるボランティア活動、会員運動を活発化することが契機となり、会員増強の機運が高まることを期待しています。グローバル社会が益々進展していく中、多様性を尊重し、互いを認め合い、高め合う社会、地域を目指していきたいと思います。

先日の熊本YMCA会員大会で、初めての方5名を含めた新しい常議員10名が選任されました。6月から20名体制での新常議員会が始まります。個々の力を出し合い、創意工夫しながら、隣人を自分のように愛する心を携えて、会員運動を進めていきたいと思います。

t a l a n t o n

Snap

読者の皆さんから寄せられた写真を紹介します。



▲「湯島ヨットクルージング例会」by トトロリーダー(常議員、八代ワイズメンズクラブ) @熊本県上天草市大矢野町 湯島ヨットで湯島へ。八代ワイズメンズクラブ・ウエルネス例会です。



▲「YMCAとワイズの素敵なパートナーシップ！」by マチコ(熊本YMCA学校事業委員、熊本ジェーンズワイズメンズクラブ) @韓国 麗水

2018年韓国の麗水で開催されたワイズメンズクラブ国際大会でのスナップ写真です。



▼「2年間よろしく！」by リム(YMCA学院 建築科1年) @阿蘇キャンプ・YMCA学院中央校舎 クラスの仲間たちです。



▼「“大牟田の宝もの”巡り」by かえで(リフレスおむた“がまだす隊”メンバー) @リフレスおむた

リフレスは子ども大牟田検定“大牟田の宝もの”の一つ。がまだす隊、毎月楽しみ!



写真募集中

YMCAの活動の様子や思い出を写した写真を募集します。採用された方には、YMCAオリジナルノートをプレゼント。



応募はこちら▶

ウォーターセーフティーキャンペーン

海や川へ行ったり、水辺で水遊びをしたりする機会が多くなる夏。YMCAでは水難事故から大切な生命を守り、安全で楽しい水遊びをするために、「ウォーターセーフティーキャンペーン」に取り組んでいます。



2018年度の様子

30年以上にわたり、YMCAスイミングスクールの子どもたちを対象に「着衣泳体験」を実施。1995年からは学校、幼稚園など諸団体へ講師を派遣し水上安全講習会(着衣泳指導)も実施しています。

キャンペーン内容

- 「ウォーターセーフティーハンドブック」の無償配布(熊本市内・熊本市近郊の小学1年生対象)
- YMCAスイミングスクールでの着衣泳体験
- 近隣小学校・幼稚園などでの水上安全講習会(着衣泳指導)の実施
[過去5年間の実績]延べ80校・園にて実施 受講者延べ17,000名
- 大人・保護者対象の心肺蘇生講習会の実施

お問い合わせ

熊本YMCA むさしセンター Tel 096-248-6334

わたしと聖句

詩編150編6節

息あるものはこそって 主を賛美せよ。ハレルヤ。
息あるものはこそって 主を賛美せよ。ハレルヤ。

その場のパツとした華やぎですが、苦しみの時間、辛い時間は、ずーっと続きます。その重さ。詩編の半分が嘆きの詩であるというのは、その重さを象徴しているように思えます。

そんな詩編を読み続けて行って、最後の最後、何と云っているかというところ、「息あるものはこそって主を賛美せよ。ハレルヤ。」と歌います。

「息あるもの」：創世記2章を読むと、神は土の塵から人をお造りになり、そこに「息」を吹き入れて生きる者とされた、とあります。私たちは皆、息あるもの。どんな人生であっても、神様から「息」を吹き入れられて、生かされているもの。ならば嘆き多い日々であっても、息を、命を与えられた御方を賛美しよう、と歌っているようです。

「息あるものはこそって 主を賛美せよ。ハレルヤ。」
YMCAに賛美の歌声が響き渡りますように。あなたの口に賛美が宿りますように。

日本福音ルーテル神水教会
角本浩

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)

発行人／岡成也 編集人／因幡 亮治
定価60円 購読料は会費を含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2019年度基本聖句

マタイによる福音書 22章39節
隣人を自分のように愛しなさい。